

十二月の法座・行事

- 十二日・闍如上人御逮夜・常永代経 (午後二時)
 - 十三日・闍如上人御命日 (午前八時)
 - 二十七日・宗祖聖人御逮夜 (午後二時)
 - 二十八日・宗祖聖人御命日 (午前八時)
 - 三十一日・歳末昏時勤行 (午後三時)
- ※ 諸般の事情により今月の同朋の会、正信偈書写の会、定例法話はお休みです。

◆年末年始の行事予定

- 十二月三十一日 午後三時より 歳末昏時勤行
 - 元旦〜三日 午前八時より 修正会
- ※ 別院墓地では、元旦から三日までは午前六時半から午後五時まで開門しております。(色花・線香等は九時より販売) お墓へは開門時間内にお参りいただきませぬ。

◆敬弔

生前の遺徳を偲び、謹んで哀悼の意を表します。

法名 超日院釋弘誓
俗名 日野 弘
十月三十一日寂 享年七十八歳

法名 信行院釋澄心
俗名 北川 正澄
十一月十七日寂 享年九十三歳

去る十一月十七日 天満別院門徒会顧問 北川正澄さんが亡くなりました。

北川正澄さんは昭和六十一年から平成十六年まで十八年間、六期にわたって天満別院責任役員として御尽力いただき、平成二年から平成六年までは天満別院門徒会会長も務められました。

◆今月の天満別院伝道掲示板

「余生」とは
余りの人生ではなく
余すことなくいただく
人生である

編集後記

本年も残すところあと僅かとなりました。この一年間「六字城」のご愛顧ありがとうございました。皆様良いお年をお過ごしください。

堀河

六字城

「和讃のおはなし」

真宗大谷派 鍵役
宣心院 大谷 暢文

『勢至讚(五)』

子の母をおもふがごとくにて
衆生佛を憶すれば
現前当来とおからず
如来を拝見うたがはず

(子供が母を思うように、私たち衆生も阿弥陀さまを憶念すれば、この世にいる私たちは、お浄土に往生することもあるかもしれません。そして阿弥陀さまを見奉ることは疑いありません。)

発行

真宗大谷派(東本願寺)天満別院
大阪市北区東天満一-八-二六

電話 六三五一-三三三五
代表者 輪番 武宮 信勝

このご和讃は『首楞嚴經』の「十方の如来は衆生を憐念して母が子を憶うがごとくす。もし子が逃げ逝いて憶うと雖も何をかなさん。子もし母を憶はば母憶う時のごとし。母子生を歴れど相違遠せず」をもとにしています。『首楞嚴經』は、母と子の関係を持ち出して、阿弥陀さまと私たち衆生との関係

があるからです。そのような憶いや心は、子が生を受けた時から芽生えています。その母の憶いに気づく時、子供はすべてを母に委ね、母を心から憶うことができるでしょう。

を明らかにされています。素朴な疑問として、私たちが阿弥陀さまに手を合わせるのが先か、それとも阿弥陀さまが私たちに憶いをかけてくださるのが先かということがあるかと思えますが、案外この確かめはなされていないのではないのでしょうか。これを母と子の関係において確かめてみるとわかりやすくなります。子供が母を慕い憶えるのは、子供が母を憶う以上に、母がその子に憶いをかけて、子供のためならば自分の命さえ与えられるような心

まが私たち衆生を憶う心は、まさに五劫思惟の中にあります。『首楞嚴經』の「もし子が逃げ逝いて憶うと雖も何をかなさん」とあるように、私たちが阿弥陀さまから逃げ出そうとしても、阿弥陀さまは決して私たちを見捨てず、追いかけてまで私たちを救いとして下さるうとするのです。だからこそ、その阿弥陀さまのありがたいお心に少しでも気づいたら、私たちはもう手を合さずにはおれないでしょう。そして自ずと口から「南無阿弥陀仏」のお念仏が出てくるはずですよ。

霊園・墓石



太田石材店

本社 〒536-0001
本店 大阪市城東区古市1丁目23番20号
〒530-0042
大阪市北区天満橋1丁目2番18
TEL 06-6930-5075
0120-30-5075
FAX 06-6930-5078

◆御正忌報恩講 団体参拝

天満別院門徒会では、去る11月23日(金)に23名で御正忌報恩講の日中法要に団体参拝をいたしました。日中法要参拝後、昼食にはがんこ高瀬川二条店にて懐石料理をいただき、大谷祖廟へ職員の解説を聞きながらお参りをいたしました。その後、親鸞聖人得度の地、青蓮院門跡を参拝し、武宮輪番から親鸞聖人得度の経緯のお話を頂戴いたしました。御門徒の皆様には朝早くからお集まりいただきありがとうございます。



御影堂を背景に 天満別院門徒会

◆天満別院 年末すす払い(大掃除) お手伝いのお願

来る新年に向けて御門徒の皆様とともに天満別院年末すす払い(大掃除)のお手伝いをお願いしたいと存じます。ご参加いただきますようお願い申し上げます。

◆新年互礼会

日時 12月23日(日) 午前10時から正午
日時 平成31年1月20日(日) 午後6時より
場所 太閤園 淀川邸
会費 一人 壹萬貳仟円

例年のごとく僧俗懇親の互礼会といたします。皆様多数のご参加をお待ちしております。
※ 同封ハガキにて、1月15日までに
ご出席の有無をお知らせください。

◎修正会とは

修正会とは年のはじめにあたり、仏さまの前へ出て仏さまの教えに生きようと決意を新たに真宗門徒の自覚を確かにする為の法要です。皆様お誘い合わせの上、是非お参りください。

◎お正月のお内仏のお飾りについて

お内仏は、前日の大晦日に年末のすす払いをし、隅々まで丁寧にお掃除ください。ご本尊前、上卓、前卓に打敷をかけます。打敷の色、模様等に決まりはありませんが、お正月らしい明るいものがあれば一層よいでしょう。お花は、若松の真、梅、南天、熊笹等を使って挿し交ぜいたします。お正月にはお華束でなく「お鏡餅」を各尊前にお供えください。以上を大晦日の歳末勤行前にお飾りください。

元旦には灯明をつけ、香炉に燃香し、蠟燭は朱(又は白)を立てます。金香炉に焼香いたしましたお勤めください。四日のお朝事過ぎにお鏡餅を下げ、お飾りを取払いまして平日の通りにいたします。(御内仏のお給仕と心得より抜粋)

◆ようこそ

天満別院に お参りくださいました

去る11月6日(火)、大垣教区第一組大泉寺様34名が団体参拝でお参りに来られました。御輪番の挨拶の後、別院の由緒と沿革の説明があり、その後、展示している六字城の額と戦前の本堂の大きさを垣間見る事のできる上卓と蓮台を見学されました。



天満別院本堂前にて 大垣教区第一組 大泉寺の皆様

輪番雑感

「いのち輝く」から 「いのち輝け」に 輪番 武宮 信勝

11月24日、2025年の「大阪万博」開催がトップニュースとなつて日本中に流れた。私の脳裏に学生時代(1970年)のシンボル「太陽の塔」の基に集まった日の記憶が再び蘇ってきた。長蛇の列に飲み込まれながらやっと入ったパビリオン。中でも「動く歩道」には、驚きを禁じ得なかった。高度成長時代の人の最先端技術や英知を尽くした未来志向への科学博であった。あれから50年。人は享楽性・利便性を追い求めて産業開発を推し進め今日に至っているといつても過言ではない。しかしながら人は心身ともに豊かになつてきたのだろうかと思われればどうだろう。便利になつてむしろ困惑している自分を感じたことも多々あったと思いませんか。人間性がどんどん見失われ、インターネット通信などのコンピュータを駆使する技術(IT)に依存しなくては生きられない現代人を50年前にどれだけの人が想定していただろうか。 今回の大阪万博開催テーマ 「いのち輝く未来社会のデザイン」 —多様で、心身ともに健康な生き方—

が掲げられました。私は、人間である「いのち」の喪失に警告したのだと聞こえてきました。我宗門もいち早く「いのち」の警告を対社会にしてみました。宗祖の750回御遠忌テーマ 「今、いのちがあなたを生きている」 大阪教区は 「いのち輝け！」と発信してきました。そこには人間性を回復し、孤立化から連帯性を生み出す真の「同朋社会の顕現」が願ひ続けられています。その願ひの主は、阿弥陀如来の本願であることが根本であることを忘れてはならない。五濁の悪世・無仏の時なればこそ、阿弥陀仏は生きて用いられてくださっていると気づいたのであります。「いのち輝け」とは阿弥陀仏の仰せであります。 「いのち輝く」はどこまでも人間性知によつて構築することである。その限り心身ともに健康な生き方には限界があるといわざるを得ない。ましてやロボットが会場を案内し、自動運転バスで移動する。無人コンビニで買い物やインターネット上にバーチャル会場を設け、仮想現実(VR)拡張現実(AR)の技術の活用等、さまざまな構想が立てられているみたいだが、本当にいのち輝くことになるのか企画当事者を含め、皆様と問い直してみましよう。